

平成 26 年 文京区議会
地域振興・まちづくり調査特別委員会
視察報告書

○視察日程 平成26年9月12日（金）

○視察先及び目的

・株式会社浜野製作所（墨田区）及び Garage Sumida（ガレージスマダ）
産学官の連携による「江戸っ子1号」プロジェクト及びものづくり拠点としての「Garage Sumida（ガレージスマダ）」に関する調査・研究

○視察参加者

【委員】	委員長	浅田保雄
	副委員長	西村修
	理事	森守
	理事	萬立幹夫
	理事	品田ひでこ
	理事	松丸昌史
	理事	田中和子
	委員	上田ゆきこ
	委員	渡辺智子
	委員	高畑久子
	委員	橋本直和

【同行】 区民部経済課長 柳下 幸一

【随 行】 区議会事務局議事調査係長 内藤 剛一

区議会事務局主事 間仲 俊介

1 視察目的

墨田区は、日本の高度経済成長を支えた町工場がひしめく「ものづくり」の町である。都内で2番目の工場数、面積当たりの工場数では都内一となっており、密な関係性の中で互いに支え合いながら、ものづくりに取り組んでいる。株式会社浜野製作所は、墨田区の町工場、職人の技術にアクセスできるハブと位置付けている。

こうした工夫と努力を、文京区の中小企業の再生と活性化にどのように結び付けられるかの調査研究を行うため、視察を実施した。

2 「株式会社浜野製作所」について

(1) 概要

【創業】 昭和 53 年

【資本金】 1,000 万円

【従業員】 32 人

【業務内容】 板金、架台・筐体（きょうたい）設計、各種アッセンブリ加工、精密板金加工、レーザー加工、金属プレス金型製作、金属プレス加工部品・試作品製作など

(2) 会社理念

日本国内における中小企業のものづくりが縮小していく中で、将来的には浜野製作所から新しい町工場のビジネスモデルを創出し、日本の製造業の発展に貢献していく。

既存の技術・システムと新技術・新システム・新素材への対応などを含めたトータル的な複合価値を高めたサービス・情報を今後も発信し続け、「信頼」ある会社づくり・人づくりを継続的に目指す。目標は、「常に明るく・元気良く」をモットーに、スタッフ・お客様の笑顔があふれる会社であり続けること。



「株式会社浜野製作所」外観

(3) 行動指針

何事においても「後でやろう！」「時間ができてからやろう！」ではNG。良いと思ったこと・言われたことは即時実行する。いくら良い考えがあっても行動に起こさなければやっていないのと同じ。たとえ失敗しても良いのでやってみること。一番ダメなのは議論だけして「やっている気」になってしまっていること。これでは何も変わらないし、何も生まれない。

(4) 地域貢献

産学官連携による新しい事業への進出、地域の工場資源を活用した環境・社会貢献活動、将来のものづくりを担う子どもたちへの体験学習、デザイナーとの異業種コラボレーションなど、従来の下請仕事をこなす町工場のイメージを超えた様々なプロジェクトを展開している。



浜野慶一社長による説明



熱く語る浜野社長

3 新ものづくり拠点「Garage Sumida」について

Garage Sumida（ガレージスマダ）は、株式会社浜野製作所が運営する「ものづくりの総合支援施設」である。

3Dプリンターやレーザーカッター、CNC加工機といった最新のデジタル工作機器を備え、個人から企業に至るまでの製品開発を支援するとともに、そこに集まる多様な人々・アイデア・マーケットをつないで、自ら主体となって新しい技術・製品・サービスを創出し、町工場から世界をつなぐ新しい産業サイクルを生み出している。



工場での作業を見学



話題の3Dプリンター

4 産学官連携の取組

・「江戸っ子1号」プロジェクト

2009年、東京下町の町工場が力を合わせ、8,000メートルの深海を目指す深海探査艇「江戸っ子1号」プロジェクトをスタートさせた。このプロジェクトは、厳しい状況に置かれた中小企業の「下請体質からの脱却」や「町工場に眠る技術の継承」を目的として展開されている。

2013年11月の房総半島沖の深海実験では、世界初の深海7,800メートルでの生物の撮影に成功するなど、国内外から大きな注目を集めている。

・電気自動車「HOKUSAI」開発プロジェクト

2009年、東京スカイツリーの開業に合わせ、電気自動車「HOKUSAI」を、区内中小企業・早稲田大学・墨田区で共同開発した。2012年には、公道を走れる一人乗りEV「HOKUSAI-III」が完成した。

産学官の連携により様々な事業を展開し、その技術力の高さをPRしている。

5 その他

上記の取組のほか、春休み・夏休み時期に、子どもたちの職人体験ワークショップとして実施している「アウトオブキッズニア」は、2014年の夏休み開催では、全回とも満員となるなど好評を博しており、多くの子どもたちに「ものづくり」の楽しさを伝えている。



Garage Sumida 前にて集合写真

視察成果のまとめ

視察を終えて

浅田 保雄

文京区において、印刷・製本、医療機器などを始めとして、中小企業は後退を余儀なくされている。浜野製作所では、納期厳守・低コスト・高品質・高精度の加工・製作といった“モノづくりへの姿勢”を堅持し、信頼を集めている。また、「スピード・実行・継続」をキーワードにして、常に新しい「モノづくり」にチャレンジし、企業を取り巻く環境は時々刻々と変化しているが、その変化に対応している。

また、“江戸っ子1号プロジェクト”にみられるように、町工場がそれぞれの技術を結集することで、新たな製品の提案、新規製品の共同開発や新規製品開発へとつながっている。

こうした工夫が行われることを支援することが求められている。とりわけ、中小企業の従来の仕事内容の見直し、新しいニーズに応えられる企業への脱皮が求められる。そこへの研究の場、企業間の交流の場の提供などが求められる。

「まずは行動を起こすべし」

西村 修

地域振興・まちづくり調査特別委員会の視察で、墨田区にある極めてチャレンジ精神旺盛な町工場を見学してまいりました。浜野製作所の優秀な作品はウェブサイトを見れば一目瞭然なのであえて触れませんが、現在の日本の景気の中で、商店街を含む多くの中小零細企業が将来に明るい光が見えない中で、現在、浜野製作所のように生き残っていられるのは、他と違った独自のアイデアと正にチャレンジ精神であると確信しました。

アイデアもなく、融資に頼ったり、行政任せにすることなく、多方面にアンテナを張り、時代のニーズに合わせている。この会社の理念で一番感動したことは、「大切なのはまずは行動を起こすことである」との言葉に尽きると思いました。

産業形態が刻々と変化を遂げる現代の社会の中で、ペーパーレス化した中に、文京区も多くの印刷・製本業もあり、また、小・中型スーパーが町中に展開し、ますます商店街に活気がなくなる中を生き抜くには、行動を起こすべし。

墨田区の「浜野製作所を視察して」

森 守

墨田区も小さな工場が集積している区であり、ものづくりが盛んだ。ものづくりに関連する企業が3,100社あり、その8割が社員5人以下という現状とのこと。そんな墨田区で元気な企業として知られているのが、板金を中心に様々な部品を製作している浜野製作所である。工場は幾つかに分かれており、大量に生産するラインと少数での注文を受けるラインとに分かれており、特に、個人からの注文を受けることを大事にしている。

どんな難しい製品も作るという精神は、正に職人氣質がそこにあるように感じた。また、経営理念も社員に訴えかけるような内容で、難しい表現を使わず、分かりやすく社員の皆さんも明るく、働きがいがある職場風土を感じた。そして、社長の不屈の精神とすばらしいリーダーシップを感じ取ることができた。

最後に、ものづくりの命である技術の継承について、もう少し詳しく聞くことができればよかったと感じた次第である。

「ものづくり」のまちを視察して

萬 立 幹 夫

視察で訪ねた墨田区は、約3,100社が密集するまち工場集積地です。しかし、この時世で、最盛期と比べ事業所は3分の1に減っています。さらに、この先5年間で、「廃業」、「廃業予定」は500社に及ぶと言われています。

株式会社浜野製作所は、昭和42年創業の金属加工の会社です。14年前にもらい火で工場が全焼するなど、幾多の困難を乗り越えて、企業規模を拡大し、「すみだが元気になるものづくり企業大賞」などを受賞しています。しかし、根っこにあるのは、「お客さま」、「スタッフ」、「地域」です。金型の量産品から他社では受けない「一品物」まで受注しています。モノの管理など、「金を生まない仕事」も効率的に、仕事やスタッフへの配慮も感心します。

文京区でも、26年10月から、「中小企業調査事業」が始まりました。これをよく分析するとともに、中小企業支援員や区職員も、膝を突き合わせて業者の相談・支援を思い切って拡充すべきです。

中小企業経営の鍵はPDCAをきちんと回すこと

品 田 ひでこ

株式会社浜野製作所の浜野慶一社長のお話を伺うのは2回目で、区内の団体の研究会で初めてサクセスストーリーを拝聴しました。今回の視察で、社長の「ものづくり」への熱き思いや会社経営のご苦勞を伺い、従業員たちが、自分の仕事に対し職人としての誇りや自信を持って仕事をされている様子を拝見しました。

第一印象は、「経営の基本であるPDCAをきちんと回して、マネジメントがしっかりできている」ということです。そして、これまでの逆境に対しても前向きに取り組み、いつもお客様に目を向けて事業を進めている、ものづくりを通して社会貢献を果たし、結果としてご自身の成果となり、また会社の利益や事業拡大につなげている「優秀な経営者」であることを確認させていただきました。

業種は違えど、中小企業を発展させる「鍵」はやはり「マネジメント」です。さらに、「自分の強みを生かす」、「顧客第一主義」、従業員の「人材育成」や「働きやすい職場環境を創る」ことであると確信しました。

ものづくり拠点（ガレージスミダ）を視察して

松 丸 昌 史

下町のものづくり拠点である墨田区では、板金・プレスを中心にした金属加工業を営む株式会社浜野製作所を拠点としたガレージスミダで、最新のデジタル工作機器を備え、個人から企業に至るまでの製品開発を支援するとともに、そこに集まる多様な人材・アイデア等を生かし、新しい技術・製品・サービスを創出する取組を行っております。

ものづくり拠点の中心的な役割を果たしているのが、浜野製作所の経営者である浜野慶一社長です。何といても浜野社長の人柄や仕事に対する情熱を強く感じました。さらに、浜野製作所の経営理念が、社員一人ひとりに強く反映され、また、現在墨田区が展開している「ものづくり拠点」に対する支援策も、下町の中小企業にとっても希望を与える施策であります。

今後は、本区においても、産学官の連携はもとより、更なる中小企業支援策に取り組む必要性を強く感じました。

元気のあるところに広がる活気とネットワーク

田中和子

色彩のないまちに突如、赤と青を基調にした建物（本社）、赤と黄色を基調にした建物（プレス金属工場）が現れた。ここが視察先の株式会社浜野製作所。機器設備はとても手入れが行き届き、大切にされていた。火災で全てをなくした人の心を感じた。

浜野社長には「短期納」という明確な経営戦略があり、そのための生産管理システムも徹底していた。工場内の仕掛け品をバーコード管理し、工程の稼働状況を画面で一覧できる。部品の発注も気付いた人が行えるシステムが整い、工具も誰でも一目で分かる位置に整えられていた。元気で勢いのあるところは、ネットワークが広がり、更なる活気を呼び込む。産学連携、ものづくり教育のアウトオブキッザニア、ものづくり実験施設であるガレージスマダなど、次代のものづくりを背負って立つ若者が輩出されることであろう。

私は、区内の医療機器産業に大いに期待したい。

視察を終えて

上田 ゆきこ

浜野製作所の視察では、中小企業の厳しい現実を目の当たりにしたが、当社が過去の危機的経営状況から、工夫と努力、そして、昭和的・家族的経営によってその時代を乗り越え、ものづくり企業としての成功例といえる会社に成長したことには、日本のものづくりの希望を見ることができた。

さらに近年は、部品の1個に至るまで、製品の管理が行き届き、機械や備品等の管理に関してもシステム化されている。また、職人の仕事もローテーションし、社内で仕事の共有を図っているなど、事業の効率化、安定的な製品供給のための工夫を行っていることは、文京区の中小企業、町工場もそのノウハウを見習いたい。

さらに、ガレージスマダを併設し、区民のものづくり体験や大学生との協働の場を提供するなど、日本クオリティのものづくりを広く市民に公開することで、一企業の事業継承だけでなく、文化としての日本のものづくり精神の継承を図ろうとしていることに感動した。

株式会社浜野製作所を視察して

渡辺 智子

墨田区の空き工場をものづくりの拠点に活用した「ものづくりの実験施設（ガレージ・スミダ）」を視察しました。こちらは、板金、プレスを中心に金属加工業を展開する株式会社浜野製作所が運営しています。しっかりした経営理念を持ち、行動指針も掲げ、活力ある企業を目指していました。個人や企業の製品開発を幅広く支援しているので、「予想以上に反響が大きく、ものづくりをやりたい人は大勢いる」と社長は語っています。

隣接する倉庫を改装して造った作業場には、3Dプリンターを2台置くほか、レーザー加工機、CNC加工機など最新のデジタル工作機器が並び、自分のアイデアを形にしたいという法人、個人の様々な相談に応じています。大手メーカーの開発者らが設立した企業の次世代型電動車いすの製造サポートを始め、遠隔型癒しロボットの研究開発を目指す学生ベンチャー企業の支援など、面白い案件もあったそうです。

同社は、積極的に異業種連携を手掛けてきた実績を持っており、大いに期待される会社でありました。今後も新産業を創出する民間の力を、行政が後押しする必要性を感じました。

浜野製作所を視察して

高畑 久子

現在、墨田区には約3,100社のまち工場があり、最盛期に比べ事業所は3分に1に減り、さらに、5年以内に500社が廃業。3,100社のうち半数が3人以下、8割が5人以下の従業員ということです。

訪ねた浜野製作所は、墨田区八広にある金属加工の会社で、社長は2代目、従業員35人の町工場。「東大阪が宇宙なら、東京は深海だ」と産学官連携の「江戸っ子1号」プロジェクト、億単位のお金が必要で苦慮したが、2013年11月、深海約8,000メートルで世界初の3D映像に成功し、実用化はこれから。

また、すみだの“ものづくり”と“観光”を融合した事業を、2012年から墨田区内の中小企業が連携し、子ども向け職人体験教室を開催。浜野製作所では、ステンレスの板から工作機械と最先端の技術を使ってスカイツリーの模型などを制作。浜野社長や従業員には、「お客様・スタッフ・地域と共に、夢と希望と誇りを持った活力ある企業を目指そう」というものづくりに対する気概を感じました。

視察を終えて

橋 本 直 和

何と言っても、浜野製作所の社長の理念が大変興味深い視察でした。

中小企業が大企業に比べて、自己実現の充実や希望と誇りを持った会社になるようにすることには、社長を始めとする役員の方々も含めて、大変な努力をしていかなくはならなかったことが十分に伝わってきました。利益を出しながら、前向きに安定した基盤を目指していく中小企業の素晴らしさを感じました。2013年、深海8,000メートルで世界初の3D撮影にチャレンジして成功したことは有名です。インターンシップの積極的な導入、観光と子どもたちの体験学習、そこから生まれる新たな事業など、今後も目が離せません。

文京区にも、浜野製作所のような多くの中小企業があると思います。力を合わせて文京区で地域貢献に努めている会社との協働の必要性を感じました。